

待機児童解消と保育の質は両輪

遠山 智恵子 議員

問 児童福祉法には「市町村に必要な保育を確保するための措置を講じなければならない」とされている。市長の認識を確認する。

市長 今までもしっかりとやってきた。ここ数年、要件の緩和によって待機児童の数が増えたが、市、民間保育施設、認定こども園と、しっかりと保育体制が確保できるような引き続き努力していく。

問 国は、待機児童解消に向けて緊急的に対応する施策を発表したが、人員配置や面積基準等を国の基準へ引き下げ、詰め込みによる子どもの受け入れを迫っている。その対象に取手市も入っているが、対応は。

福祉部長 例えば1歳児の場合、国は、園児6人に対し保育士1人のところ、市では5人に1人とするなど、国基準よりも手厚くしている。これらの水準を維持しつつ、待機児童解消に努めていきたい。

問 待機児童解消と保育の質は両輪。臨時職員保育士の皆さんを正職員に。

総務部長 全体を見渡した中で、バランスのいい配置をこれからも考えていく。

支援の拡充を特別支援学級

染谷 和博 議員

問 こども発達センター職員が小学校を巡回し、卒園生の様子を確認しては。

教育長 特別支援教育相談員が、保護者の了解の下、就学先の小学校に出向いて丁寧な引き継ぎを行っている。今後必要に応じて、こども発達センターと情報共有できるようにしていく。

問 教育補助員への研修は。答 現在、年2回実施している。

問 支援学級に通う児童へのいじめはあるのか。

指導課長 昨年度、小学校で10件、中学校で3件の報告があり、全て解決済み。

問 放課後子どもクラブなど、学校施設を利用して、特別支援学級に通う児童・生徒への支援はできないか。

教育部長 場所的、人的に、放課後まで及んで新たな事業を実施することは、非常に難しい。



みそ作りを通じた地産地消の食育

齋藤 久代 議員

問 みその機能性が明らかになってきている。昔は、私の家でもみそを作っていた。現在は、市内農家や健康に敏感な主婦の間などで個人的な小さな単位で集まって作っている方もいる。こういった地域の方々と交流しながら、学校教育の中でみそを作り、野菜を育て、旬と地産地消を体で体験させた食育を提案する。

教育長 素晴らしい取り組みと考える。地域の方と共に学習する機会を持つ学校を増やせばと考える。

教育部長 米や野菜作りを行い、実際に体験しながら



農産物直売所「夢とりで」では、地元産の米や野菜を多数販売(7月4日撮影)

取り組んでいる。指導課長 大きな取り組みになるため、学校のカリキュラム編成を含め、検討していきたい。

農業公社の「ふるさと味噌」

28年産は11月上旬から

一般財団法人取手市農業公社では、取手産のお米と、茨城産の大豆を使用したみそを、製造・販売しています。生産量は限られていますが、平成28年産は11月上旬から農産物直売所「夢とりで」などで販売予定です。

問い合わせ先 (一財)取手市農業公社 (内線2170)



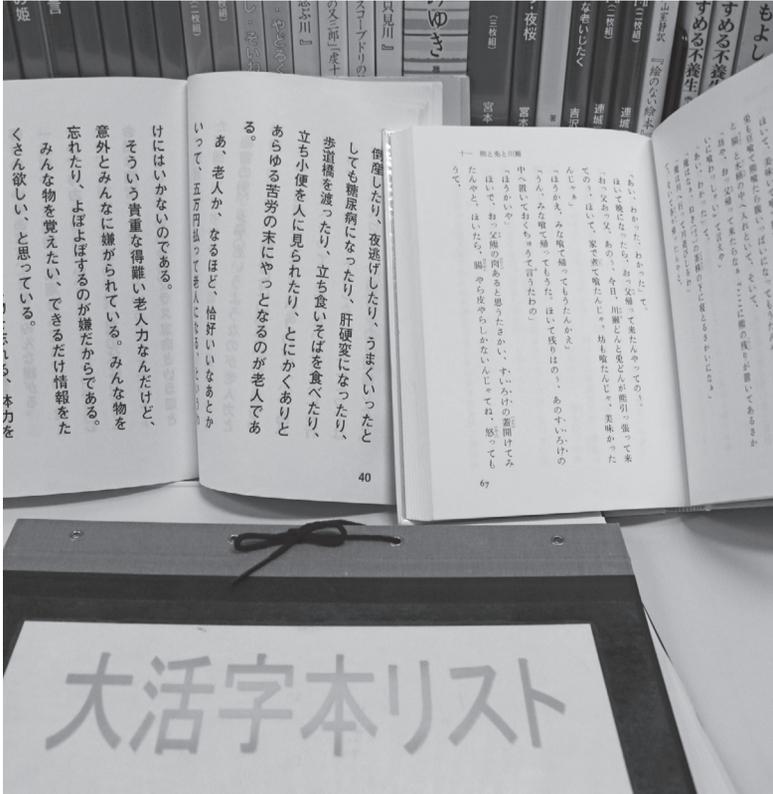
積極的対応を！障害者差別解消法

阿部 洋子 議員

問 障害者差別解消法が4月1日に施行され、行政に課せられた責任は大きい。障害者自身が進行役となつて進める対話型の障害平等研修(DET)の実施を。

福祉部長 障害者団体の意見を伺い、職員の対応要領を作成している。また、職員の災害時の障害者対策研修として、DET実施を検討したい。

問 代読代筆による意思疎通支援の技能習得に向けた研修を早急に取り組むべき。障害福祉課長 今後、先ほ



取手図書館の大活字本

ど部長が答えた職員研修の中で対応していきたい。

問 図書館にある大活字本の積極的なPRを。

教育部長 今後、検討。

問 電子書籍導入により情報バリアフリーの充実を。

図書館課長 新刊本が電子書籍になるまで時間差がある。それが解消できたときに導入を考えている。

問 災害時、避難所において、例えば黄色いバンダナをしている人は聴覚に障害がありますなどのサインによって、音の情報しかないものを周囲で気付き、文字にするなどの配慮ができるかと考えるが。

障害福祉課長 今後、考えていきたい。